

**CIHCD2022**

**みんなの認知症情報学会**

**第6回年次大会**

**インタラクティブセッション**

**発表者の研究紹介動画一覧**

**最優秀発表賞:**

紙芝居で学ぶ地域共生社会の心

青野桂子(賛助会員・青野桂子事務所 代表)

渡辺哲弘(きらめき認知症トレーナー協会 代表理事)

# 紙芝居で学ぶ地域共生社会の心

青野桂子(賛助会員・青野桂子事務所 代表)

渡辺哲弘(きらめき認知症トレーナー協会 代表理事)

地域の未来を担う子ども達の心は、自らが何らかの学び体験を積み重ねることで養われるものと考えています。もちろんその内容については、年齢相応の理解力を考慮した手法や工夫が用いられねばなりません。その学び体験の一つとして、きらめき認知症トレーナー協会が開発した小学校低学年の子どもに認知症を伝える「キッズ向け紙芝居」があります。当セッションではこの「キッズ向け紙芝居」について実演を交えて楽しくご紹介します。



# 認知症からの再生と最期まで立つ

## —マルチモーダル介入による覚醒と尊厳の確保—

河野礼子(リハビリ型デイサービス リハサロン祖師谷 施設長)

認知症進行し、入所先ケアマネから帰宅意志確認困難と言われた家族面会でのマルチモーダルコミュニケーション介入による覚醒。面会挨拶後5分後開眼困難から見える、10分後帰宅意志確認、30分后面会終了挨拶時家族をわからないからわかる。10日後の帰宅時も認知維持し、二人介助での移乗の立位困難から1週間で自立移乗。わかることのできるを定着させる短時間生活援助を生活リハビリ化するスポット介入ケア事例報告

### 認知症からの再生と最期まで立つ — マルチモーダル介入による覚醒と尊厳の確保 —

認知症が進行して、短期記憶の定着が難しいにもかかわらず、楽しい気持ち、嬉しい気持ち、嫌な気持ち、腹立たしさなど、なぜか感情だけが強く残る。それは、記憶というものが、感情と共に残りやすい、という脳の仕組みにあることがわかってきている。だからこそ、脳への有効な刺激不足が要因の認知症は、マルチモーダルケアにより覚醒し改善が可能。当事者自身が存在を自己認識し、尊厳を再獲得できる個別性に基づいたケア技術であるユマニチュードを用いて「大切な人」として関わることで、身体機能のみならず、認知症の改善にも有効であるといえる。

97才女性

2021年3月、入院中に濃厚接触者に該当。隔離され服用症候群となり、看取りのため在宅へ迎えた寝たきり認知症

ユマニチュード介入

音楽に反応し開眼、足でリズムを刻む傾眠状態から覚醒。寝返りも首を動かすこともできない体動困難から車椅子移乗、シャワー浴実施、食事自己摂取選択拒否、在宅を迎え108日目腎不全にて死亡。



86才女性

2021年12月、認知症進行により老朽家屋での独居が困難になり二世帯住宅運営へ老健入所中に認知症進行し、ケアマネより意思確認困難と言われた認知症

ユマニチュード介入

開眼・家族を認識・帰宅し独居希望表明、二人介助で移乗・排泄行為を「立つ」を意識化し自立。帰宅後7日目の朝、一人ベッドから車椅子移乗し訪問介護を待つ。当日夜間心不全にて死亡



河野 礼子

リハビリ型デイサービス リハサロン祖師谷 施設長

2016年新築開業 2002年心原性脳梗塞発症し、失語症から引きこもり認知症を発症した家族介護での進行と回復の過程を検証するためのリハビリ目的のデイサービス。家族介護の限界を感じ2019年NHKハートフォーラムに参加。ユマニチュード体験実践による効果を実感し研修受講。認知症改善に根拠を持ち発表するため准看護師取得に引き続き看護師目指し看護学生に。

# 学習データの可視化による行動変容

## 発達に特性のある子どもと保護者を対象とした調査

原田瞬 1)、西井正樹 2)、高畑脩平 3)、福永寿紀 4)、中岡和代 5)、高島  
聡江 6)、田中克明 7)、川崎一平 1)

1) 京都橘大学作業療法学科、2)大阪人間科学大学作業療法学科、3)藍野大学作業療  
法学科、4)白鳳短期大学リハビリテーション学専攻、5)大阪公立大学リハビリテーシ  
ョン学研究科、6)合同株式会社 BASE ともかな FLOW 郡山、7)コクヨ株式会社

学習に困難さを抱える子どもの中に、神経学的な発達において偏りを示す子  
どもは多い。このような子どもたちを対象とした先行調査において、ICT ツー  
ルによって提供される視覚的な情報や報酬が子どものモチベーションとなり、  
学習に向かう行動を変容させることが確認できた。今回、ICT  
ツールによる学習データの可視化により、子どもだけでなく保護者 にも行動変容が起こると仮定し、  
両者に起こる行動変容を明らかにすることを目的に研究を計画している。研究概要について発表  
し、ディスカッション する場としたいと考えている。

## 学習データの可視化による行動変容

発達に特性のある子どもと保護者を対象とした調査

学習に困難さを抱える子どもの中に、神経学的な発達において偏りを示す子  
どもは多い。このような子どもたちを対象とした先行調査において、ICTツ  
ールによって提供される視覚的な情報や報酬が子どものモチベーションとなり、  
学習に向かう行動を変容させることが確認できた。

今回、ICTツールによる学習データの可視化により、子どもだけでなく保護者  
にも行動変容が起こると仮定し、両者に起こる行動変容を明らかにすること  
を目的に研究を計画している。当日、発表資料を配布し、研究概要について  
ディスカッションする場としたいと考えている。

原田瞬<sup>1)</sup>、西井正樹<sup>2)</sup>、高畑脩平<sup>3)</sup>、福永寿紀<sup>4)</sup>、中岡和代<sup>5)</sup>、高島聡江<sup>6)</sup>、田中克明<sup>7)</sup>、川崎一平<sup>1)</sup>

1)京都橘大学作業療法学科、2)大阪人間科学大学作業療法学科、3)藍野大学作業療法学科、4)白鳳短期大学リハビリテーション学専攻、  
5)大阪公立大学リハビリテーション学研究科、6)合同会社BASEともかな FLOW郡山、7)コクヨ株式会社

京都橘大学研究倫理委員会承認 (21-35)



# 認知機能低下を支援するという視点から見たプレゼンテーションツール

今井克暢(広島大学情報科学部)

一般に、このインタラクティブセッションのような設定をプレゼンテーションと称するが、そもそも介護者や医師に自分の症状を説明する場合であっても、プレゼンテーションを行っていることに変わりない。ライブかつ時間制限がある中で説明する、またそれを聴くという設定は、認知機能の低下や変動の問題を抱えている発表者、視聴者双方にとって高いハードルとなる。わざわざ専用アプリで発表準備をしなくても、日常自分が記録に利用するツールが自己説明的であって、そのままプレゼンテーション機能を有している設定の可能性について、個人的な実例を紹介する。

## 認知機能低下を支援するという視点から見たプレゼンテーションツール

今井 克暢 (広島大学情報科学部) ②

- 生活のすべてはプレゼンテーション  
日常生活において、自分を含めた誰かに何かを説明する場はすべてプレゼンテーション ②
- ライブかつ時間制限を課されることが多い  
認知機能の低下や変動の問題を抱えている発表者、視聴者双方の課題 ②
- あらたまってプレゼンテーションをしますなどと言わずとも  
日常的に記録に自分が利用するツールが自己説明的なら、それ自体がプレゼンテーションのはず ②
- そもそもプレゼンテーションのための(同期した)時間、空間を規定する必要はない  
医師を前にして自分の症状を緊張しながらの説明は不要 | ハーサルが済んでいたら本番は不要! ②

長めの説明動画は  
このQRコードから



# 「佐藤慶子の《声ぢから》メソッド・理念と方法」

佐藤慶子(株式会社 MuCuL(ミュウカル))

佐藤慶子のオリジナルメソッド《声ぢから》は声の持つ原始的な生命エネルギーに着目した心とからだのためのレッスンです。一般のボイストレーニングとは異なります。具体的には呼吸、心(マインドフルネス的瞑想)、身体(声帯を含む)を、互いにトライアングル(正三角形)の関係になるよう等しく磨くことでその人本来の声を獲得し、これにより老人、教師、社会人、アーティスト、心因性発声困難者など多様な人々が生き生きと生きることを可能とします。

インタラクティブセッション

《声ぢから》・理念と実践

株式会社 MuCuL (ミュウカル)

佐藤 慶子

The image is a screenshot of a video session. The main content is a slide with a light yellow background and a dark orange border. At the top, it says 'インタラクティブセッション' (Interactive Session). The title is '《声ぢから》・理念と実践' (《Voice from》・Concept and Practice). Below the title is a circular portrait of Keiko Sato, a woman with long brown hair. Underneath the portrait, it says '株式会社 MuCuL (ミュウカル)' (MuCuL Co., Ltd.) and '佐藤 慶子' (Keiko Sato). In the top right corner, there are two small video thumbnails showing other participants. In the bottom right corner, there is a control bar with icons for volume, mute, and other video controls.

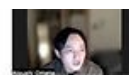
# 認知症ケアのスキル可視化に基づくデータコーチングシステムの開発と介入効果

小俣敦士, 中野目あゆみ, 香山壮太, 菅家穰, 石川翔吾

医療介護現場において認知症ケアを学ぶための環境は十分ではない。本研究では認知症ケアの実践映像を用いたデータコーチングシステムを提案する。観察情報に基づきケアスキルの実践状況を評価し可視化することでデータコーチングを実現する。本システムを用いた比較実験を実施し有用性を検証した。その結果、初学者の映像事例に対して有意な効果が見られ、本システムの有用性を確認した。



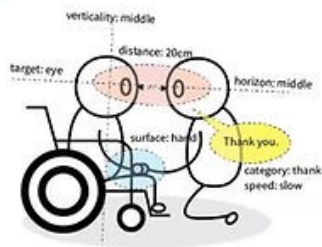
小俣敦士, 石川翔吾 (静岡大学)  
中野目あゆみ, 香山壮太, 菅家穰 (郡山市医療介護病院)



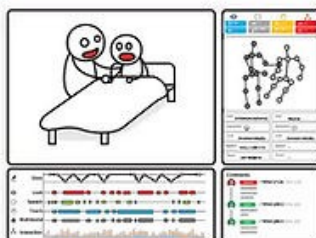
## 認知症ケアのスキル可視化に基づくデータコーチングシステムの開発と介入効果

多忙な介護現場においてケアスキルを継続的に向上させていくためには、人による教育だけではなくシステムと協調して学ぶような場をデザインして発展させていく必要がある。

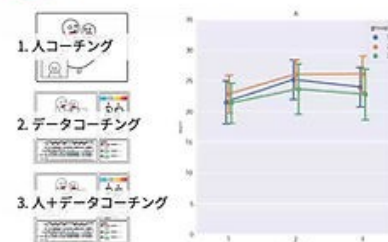
01 ケアの実践映像から指導のポイントを自動抽出するモデル設計



02 指導のポイントを可視化するデータコーチングシステムの開発



03 人によるコーチングとの比較実験で介入効果を分析



人による教育介入の一部をデータコーチングに置き換えることができ学習環境の発展に寄与することがわかった。